「清流の国ぎふ」文化祭2024さきがけプログラム

清流の国ぎふ 地歌舞伎 勢揃い公演 夏

2023年7月22日（土）

◆会場 ぎふ清流座（ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール）

◆開演 14時00分（開場13時00分）

◆上演外題・出演

14時00分（70分）
幼馴染（おんなじばらく） 長瀧白山社社頭（ながたきはくさんしゃしゃとう）の場（ば）
岐阜歌舞伎保存会（岐阜市）

15時30分（60分）
助六由縁江戸桜（すけろくゆかりのえどざくら） 三浦屋前（みうらやまえ）
だち歌舞伎保存会（土岐市）

終演16時30分（予定） 演目等は変更となる場合がございます。

岐阜歌舞伎保存会

だち歌舞伎保存会

ライブ配信

公演の模様をぎふ清流文化プラザYouTubeチャンネルで配信します。

ぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネル

イヤホン同時解説

演目の見どころやあらすじについて、分かりやすく解説します。

地芝居大国ぎふ応援大使
古典芸能解説者 葛西 聖司氏

第39回国民文化祭 第24回全国障害者芸術・文化祭
「清流の国ぎふ」文化祭2024
ともに・つなぐ・みらいへ ～清流文化の創造～
2024年10月14日（月・祝）～11月24日（日）

主催／岐阜県・（公財）岐阜県教育文化財団
協力／岐阜県地歌舞伎保存振興協議会

JAPAN CULTURAL EXPO

清流の国ぎふ

地歌舞伎 勢揃い公演 夏

岐阜歌舞伎保存会（岐阜市）

延宝四年（一六七六年）伊奈波社頭で官許を得て始まった「岐阜座」による歌舞伎や辻能は人形浄瑠璃の興行へ進展し、明治末年まで盛んに公演が行われました。嘉永年間（一八四八―五五年）には七世 市川團十郎が岐阜に滞在するなど、芝居町としての隆盛を極め、岐阜祭の子供歌舞伎では三世 中村仲蔵が指導にあたったと記録されています。さらに、若衆による「にわか芝居」が商家の座敷や山車の前など、岐阜の町のあちこちで盛んに演じられました。

当保存会は平成二十二年に戦前のにわか芝居を再生した「岐阜まち歌舞伎」を岐阜座発祥の地である伊奈波神社境内で上演したのを契機に発足しました。会員は岐阜市金華、京町両地区にある老舗の跡取りらでつくる「岐阜町若旦那会」のメンバーが中心です。

現在も毎年四月五日に開催される伊奈波神社例大祭前夜に地歌舞伎を奉納しており、地域の方々にも出演いただき、お囃子には小中学生も参加しています。今後も地歌舞伎とともに、地域を盛り上げて参ります。

だち歌舞伎保存会（土岐市）

土岐市駄知町において、およそ半世紀ぶりに歌舞伎公演を復活させたことをきっかけに、二〇一九年 岐阜県地歌舞伎保存振興協議会に加入しました。

保存会としての歴史が浅く、この世界での知名度はまだまだ低いことから、当面は協議会及び土岐市主催の行事に積極的に参加して公演を重ねることで、地域の皆さんに広く知っていただきたく活動を続けています。

そのうえで、きたる令和七年、土岐市にて開催予定の「飛騨・美濃地歌舞伎大会」の成功を目指して参ります。

同級生だけで始めた保存会ですが、現在では小中学生をはじめとして、様々な年代の加入があり、年齢層の幅の広がりが演技全体の厚みをもたらすことを楽しみに日々稽古に励んでいます。

地芝居の魅力発信「WEBミュージアム」

保存団体による公演情報やアーカイブスなど、魅力あふれるコンテンツを発信中

地芝居大国ぎふ WEBミュージアム
JISHIBAI TAIKOKU GIFU WEB MUSEUM

地芝居大国ぎふ WEBミュージアム

ぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネル

地歌舞伎勢揃い公演の動画を配信中！

次回公演のお知らせ

清流の国ぎふ 地歌舞伎 勢揃い公演 秋

2日間連続開催！

※詳細はホームページにてお知らせいたします。

9月9日（土） 初秋公演 其の壱
出演：飯地五毛座歌舞伎保存会（恵那市）
串原歌舞伎保存会（恵那市）

9月10日（日） 初秋公演 其の弐
出演：恵那歌舞伎保存会（恵那市） 恵那文楽保存会（中津川市）

地歌舞伎とは

地歌舞伎とは、地元の素人役者たちによって演じられる、地域に根付いた歌舞伎です。
江戸や上方で盛んであった歌舞伎は、地方を巡るプロの旅役者によって全国各地に広がり、
それに憧れた地方の人々が神社の祭礼で演じたり、芝居小屋を造ったりと、自ら楽しむようになりました。
現在、岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体が存在し、9軒の芝居小屋が各地に現存しています。
岐阜県は全国有数の地歌舞伎が盛んな地であり、芝居小屋をはじめ、毎年各地で定期公演が開催されています。
江戸時代から伝わる演目や振付が大切に受け継がれ、親しまれている岐阜県の地歌舞伎をご堪能ください。

女暫　長瀧白山社社頭の場　岐阜歌舞伎保存会（岐阜市）

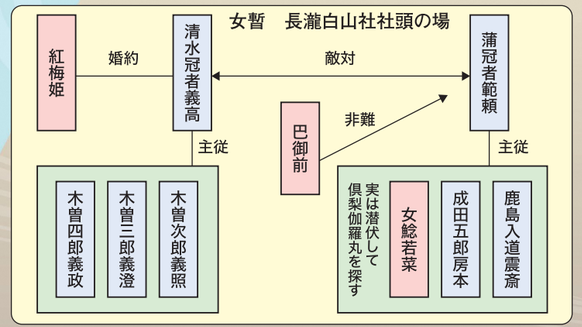
長瀧白山神社へ平家追討で大きな功績を上げた蒲冠者範頼が、家来たちを引き連れて参拝にやってきます。そこへやってきたのが木曽源氏の主流、清水冠者義高とその婚約者　紅梅姫たちの一行です。義高は近頃目にあまる範頼の傲慢なふるまいをたしなめます。一族の義照らが、紛失した家宝・倶梨伽羅丸を範頼が持っているなら早く返せと迫ります。しかし範頼は、はなもひっかけず以前から執心の紅梅姫をなびかせようとしますが、一向に言う事を聞かないので家来の成田五郎を呼び出して、全員成敗してしまえと言いつけます。今にも、一行が殺されそうなその時、「しばらく」と言う大きな声が聞こえ女武者が姿を現します。この女こそ力自慢の巴御前です。追い返そうとしますが、とてもかないません。巴御前は範頼のそばへやってきて、何の罪もない人々を斬ろうとした範頼の行いを責め、許しもなく金冠白衣を身に着けていることを非難し、義高が紛失した「倶梨伽羅丸」も所持しているだろうと問い詰めます。すると範頼の家来と見えた若菜が駆け寄って、義高の家来 手塚太郎に倶梨伽羅丸を預けてあることを明かし、手塚太郎を呼び出します。実は若菜は木曽の家来 樋口次郎の妹で、範頼の家来になったと見せかけて倶梨伽羅丸の行方を探っていたのです。倶梨伽羅丸を取り戻した義高一行を去らせ、巴御前は取り囲んだ仕丁たちの首を、大太刀ふるって一度に刎ねます。悔しがる範頼を尻目に、太刀を担いで巴御前はゆうゆうと引き上げます。悪人たちをやっつけた巴御前は、大太刀を担ぎ六方を踏んで引っ込んでいきます。

◆配役

巴御前　蒲瑞和（中学一年生）
蒲冠者範頼　蒲勇介
成田五郎房本　山本慎一郎
猪俣平六義延　松枝秀乗
江田源三義明　橋爪大
武蔵九郎氏清　羽根田雄仁
鹿島入道震斎　古田浩紹
女鯰若菜　藤居進一
竹下孫八　大平雅章
新開荒次郎　杉江陽輔
山下弥太郎　津川裕平
竹沢宮藤次　深田航平

仕丁
〃　寺澤隆之介（小学三年生）
〃　蒲十一（小学一年生）
〃　金森華子（小学一年生）
〃　金森貴子（小学一年生）
清水冠者義高　寺澤隆浩
紅梅姫　矢島明
木曽次郎義照　安田尚央
木曽三郎義澄　金森宗八郎（小学五年生）
木曽息女旭姫　蒲見音（小学四年生）
木曽四郎義政　金森慶七郎（小学三年生）
根井主膳行親　織大起
手塚太郎光盛　河本篤

局唐糸　関愛子
腰元梅ケ枝　横田芹奈（小学四年生）
腰元花ノ井　福富梢
御茶後見　田代光（小学五年生）
後見
〃
〃
〃
牧野浩之
田代達生
丸山亮
川島徹郎
狂言方
金森正親



助六由縁江戸桜　三浦屋前　だち歌舞伎保存会（土岐市）

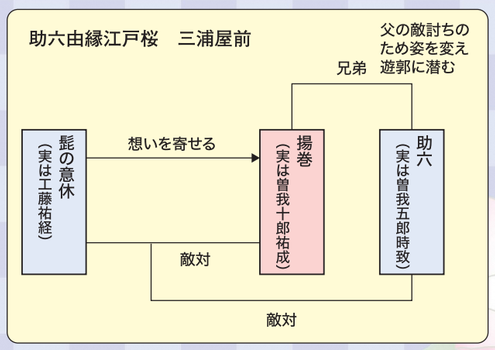
いわゆる曽我物狂言の一つで、その舞台設定を仲の町という華やかな遊廓においています。曽我の十郎・五郎の兄弟は、曽我家代々に伝わる刀の探索と父の敵討ちをするために、今は揚巻・助六とそれぞれ姿を変えてこの遊廓に潜んでいます。

折から、富士の狩り場奉行となった工藤祐経は、お大尽　髭の意休としてお忍びでこの廓に遊びにきました。意休が呼んだのはこの廓きっての三浦屋 揚巻です。身請けしようとして、無理難題を言い付けますが、揚巻は思うようになりません。そこへ現れたのは、花街の人気者の助六です。その場を受けて、反対に意休を笑いものにしてしまいます。怒った意休が抜いた刀こそ、曽我家の家宝『友切丸』です。

お忍びでやってきた意休こそ、曽我の十郎五郎の兄弟でありました。思わぬ花街での対面に心も勇みますが、後日の再会と対決を約束して別れるのでありました。

◆配役

花川戸助六（実は曽我五郎時致）　丹羽雄一
揚巻（実は曽我十郎祐成）　戸松冨美子
三浦屋 白玉　後藤寿登代
遊女　古屋弓子
〃　加藤信子
〃　長瀬栄利子
〃　宍戸義隆
髭の意休（実は工藤祐経）　栗山英治
くわんぺら門兵衛　遠山明良
福山かつぎ 寿吉　前野善孝
股くぐり 侍　水野晟也
通人　南波誠示郎
新造　宍戸柚葉（中学一年生）
〃　花輪彩加（中学一年生）
男衆　西尾隆久
〃　川合新
禿　宍戸要太（小学一年生）
〃　宍戸喜乙（小学一年生）
後見　松川竜之助
〃　松川竜也
三浦屋 やり手　宍戸義隆



協力

振付指導　二世尾上幸松
　　松川竜之介
下座　長唄　杵屋神威
　　鳴物　住田喜久次
　　鳳川喜久有
　　金森喜十郎
　　住田尚子
笛　小野崎隆賢
顔師　市川紫女升
着付・衣裳　美濃歌舞伎衣裳部
　　林まゆみ
　　小川厚子

イヤホン同時解説

葛西 聖司氏

東京都出身。古典芸能解説者。NHKアナウンサーとしてテレビ、ラジオで様々な番組を担当してきた。現在は、歌舞伎や能狂言など古典芸能の解説や講演、また日本伝統文化のセミナーを全国で開催している。「教養として学んでおきたい歌舞伎」、「教養として学んでおきたい能・狂言」、「僕らの歌舞伎」、「文楽のツボ」ほか著書多数。令和四年四月より地芝居大国ぎふ応援大使に就任。